

平成21年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「地方港湾における住民主体のマイクロビジネス型市民市場プロジェクト」(地産地消のすすめ)		
(2) 実施団体名	NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま	(3) 対象地域	徳島県小松島港地域
(4) 代表団体名	NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま	(5) 推薦団体名	小松島市

(6)実施した取組の内容	取組①	市民参加型の常設屋内フリーマーケットの分析とシステム再構築－地域波及効果の基礎調査－		
	実施主体	主担当: NPO		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		内容: 環境対策活動を目的として展開する屋内フリマにおいて、「検証資料データ収集整理」「関係者聞き取り調査」を行い、「屋内フリマ特徴分析」を実施する。そして、屋内フリマの「地産地消等の地域波及の効果把握」を行い、これらをもとに「屋内フリマ再構築WS」を1回開催し、既存の「屋内フリマのシステム再構築」を行う。	実施内容: 聞取調査15名、既存フリーマーケットデータ検証、第1回港商人会議をもとに、屋内フリマの特徴分析を行い屋内フリマのシステムを再構築 実施期間: 平成21年9月～11月 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo 取組結果: 屋内フリーマーケットの「商品」「PR」「システム」「出店者」「顧客」「売り場」「人材教育」等について課題を明らかにし、屋内フリーマーケットのパワーアップとして、①新たなターゲット、②新たな商品、③新たな仕組み・仕掛け、について検討した。	
	取組②	マイクロビジネス型市民市場モデル構築－地域産物の流通経路分析－		
	実施主体	主担当: NPO		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		内容: まず情報収集として「先進事例調査」や専門家を招聘した「勉強会」を開催する。市民市場モデルの「全体フレーム構築」を行い、「地産地消のための地域産物・市民創作物の流通経路分析」のもと、市民市場モデルを個別に構築する。モデル構築は、リユース型、農産物・水産物型、サービス型について行う。さらに各個別モデルについて市民市場管理運営ツールの構築を行う。	実施内容: 先進事例調査6カ所、勉強会2回開催、市民市場全体のモデル構築、個別モデル構築 実施期間: 平成21年10月～12月 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo、視察調査(埼玉、山梨、愛知、三重、岩手、福島) 取組結果: 市民市場の全体フレームとして、市民市場の定義、市民市場の目指すもの、市民市場の種類、市民市場の分類(資源、目的、参加主体)、市民市場のイメージを構築した。市民市場個別モデルとして、リユース型モデルとして「個別商品モデル」「団体出店モデル」など、産直型モデルとして「びんびプロジェクトモデル」「漁船横付けモデル」など、サービス型モデルとして「旅客船活用モデル」「花火観戦クルージングモデル」など、スペース活用型として「空間貸しスペースモデル」「定期的1日フリマモデル」などの、個別モデルを立案した。	
	取組③	マイクロビジネス型市民市場モデル社会実験(リユース型)－地産地消実証実験－		
	実施主体	主担当: NPO		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		内容: 取組②で構築された「市民市場モデル」を実証するための社会実験(リユース型)を行う。参加者を募集し研修を経て、地産地消の実験を実施し、アンケート結果を参考として分析評価を行うとともに修正し、「市民市場モデル」を確立し、次年度に農産物・水産物型・サービス型実証実験。	実施内容: 市民市場のリユース型モデルを実証するための、社会実験の実施 実施期間: 平成21年12月～平成22年1月、(社会実験実施期間)平成22年1月15日～平成22年1月29日実施 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo 取組結果: 当初計画のリユース型も含めて、産直型、サービス型、スペース活用型について社会実験を実施。参加申し込み数28組で、現在も参加者増加中。事前アンケート、事後アンケート100名実施。現在、社会実験分析中。市民市場モデル修正検討中。	
取組④	市民市場担い手育成のための講習会開催－地産地消、市民創作、サービス起業人材の育成－			
実施主体	主担当: NPO			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	内容: 担い手育成のための講習会を、各層や分野別の個人・団体と連携を図り開催する。講習会は、主婦層、福祉団体、団塊の世代や高齢者、NPO団体を対象として各2回計8回開催し、各講習会終了後に、参加者アンケートを実施し、次年度の担い手育成の参考とする。	実施内容: 市民市場の担い手育成のために講習会を開催(個人・団体を同時開催、計4回) 実施期間: ①平成21年11月30日、②平成22年1月8日、③平成22年1月9日、④平成22年2月13日(予定) 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo及びおがわ 取組結果: 市民地市場の目的、概要等、出店の留意点等について講習会を実施。3回までの講習会実績として、35名の講習会参加者数を確保。最終4回目講習会では、50名の参加者見込み		

(6)実施した取組の内容	取組⑤	市民市場を活用した中心市街地への処方箋－アンテナショップ展開・モデル実験－	
	実施主体	主担当: NPO	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		内容: 市民市場モデルを中心市街地へ展開し小松島市の活性化を図る。このため、「市民市場モデルパンフレットの作成、中心市街地参加者講習会の開催(1回)を実施する。また、継続的な協働型プロジェクト推進に有効と見られる双方向型WEBツールを整備し試行運営を行い、WEBツール参加者への利用状況アンケートを実施して双方向型WEBツールの修正を行う。	実施内容: モデルパンフレット作成。中心市街地説明会開催1回。双方向型市民WEBツール整備・試行運営 実施期間: 平成21年12月～平成22年3月 中心市街地説明会平成22年2月14日(予定) 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo 取組結果: モデルパンフレット作成中。中心市街地説明会は、小松島市中心市街地活性化検討会、小松島商工会議所との連携により、2月14日9:00-17:00で開催予定。WEBツールは、双方向ブログを併設するホームページ(http://shiminichiba.com/)を平成21年12月末より開設、現在運用中。
取組⑥	港商人[みなとあきんど]会議開催(小松島市内の商業関係者対象WS方式)		
実施主体	主担当: NPO		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	内容: 本プロジェクト推進における小松島市内の商業関係者対象にワークショップ(WS)方式の港商人(みなとあきんど)会議を開催する。港商人会議は「①港商人会議(屋内フリマ検証)」「②港商人会議(市民市場モデル構築)」「③港商人会議(社会実験)」「④港商人会議(担い手育成)」「⑤港商人会議(水平展開)」のテーマで開催し、それぞれ「会議まとめ・分析」を行う。	実施内容: 港商人[あきんど]会議開催(計3回) 実施期間: ①平成21年10月13日 ②平成21年11月20日 ③平成22年1月8日 実施場所: 小松島みなと交流センターkocolo 取組結果: 第1回会議は、屋内フリマパワーアップをテーマに、「新たなターゲット」「新たな商品」「新たな仕組みや仕掛け」「改善点」について検討した。第2回会議は、「みなとオアシスを活用した市民市場検討」「市民市場としての屋内フリーマーケット」「社会実験」について検討した。第3回会議は、「市民市場モデル」「市民市場でのCO2削減効果把握」「社会実験」について検討した。	
(7)実施体制	平成21年度の取組実施における体制・役割分担		当初計画からの変更点
	<p>全体遂行 NPO</p> <p>取組①: 常設屋内フリーマーケットの分析とシステム再構築 NPO+ 徳島大学・阿南高専</p> <p>取組②: マイクロビジネス型市民市場モデル構築 NPO+ 徳島大学・阿南高専</p> <p>取組③: マイクロビジネス型市民市場モデル社会実験 NPO+ 徳島大学・阿南高専</p> <p>取組④: 市民市場担い手育成のための講習会開催 NPO+ 小松島市</p> <p>取組⑤: 市民市場を活用した中心市街地への処方箋 小松島市中心市街地活性化検討会</p> <p>取組⑥: [みなとあきんど]会議開催(WS方式) NPO+ 徳島大学・阿南高専・小松島市中心市街地活性化検討会</p>		取組⑤において、左記の当初に加えて新たに小松島商工会議所と連携 その他は、左記のとおり
(8)取組により得られた成果	○成果1→	「小松島みなとオアシス」での市民雇用(「市民市場」の参加者数)の拡大を図る。	
		H20	H21(当初予定していた目標)
		1,600人/年、0団体/年	2,000人/年、10団体/年
		H21(実際に得られた成果)	
	H21参加者数: 1,600人/年が、H22参加者: 1,745人/年に増加が見込め新たな市民市場の展開で、小松島みなとオアシスや小松島みなと交流センターkocoloの来場者数が、対前年比9%に伸び、売り上げ増へと繋がる結果になった。		

(8)取組により得られた成果	○成果2→	「小松島みなとオアシス」での「市民市場」の売り上げの拡大を図る	
		H20	H21(当初予定していた目標)
		売り上げ高 3,500万円/年	売り上げ高 5,000万円/年
		H21(実際に得られた成果)	
		参考売上:H20では、320ブース確保の3,500万円/年 1ブース売上が9,100円/月 H21では、208ブース確保で3,200万円/年(見込) 1ブース売上が12,500円/月が推測でき、ブース数が削減されているが1人あたりの売り上げは、対前年比137%と伸び、売り上げ増の傾向となった。	
		中心市街地及び小松島市内の商人の参加者	
		H20	H21(当初予定していた目標)
		0店/年	50店/年
		H21(実際に得られた成果)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・商店の参加数が0であったが、社会実験を通じて商店の参加が、14店舗に増加し、実験後も継続中である。 ・団体の参加数が0であったが、社会実験を通じて団体の参加が、28団体の参加があり、団体の活動資金確保に繋がることで活動の継続性が見込める。 	
	○その他の成果→	・新たなまちづくりの担い手育成や発掘、及び市民市場のCo2削減効果の基礎検討	
		H20	H21(実際に得られた成果)
			<ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の発掘と「小松島西高校商業科」の生徒達に担い手育成が期待できる。 ・阿南高専との連携の中で、H22に実施予定であった市民市場のCo2削減効果の基礎検討を本年度実施した。
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>(取り組み成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民市場の全体フレームとして、市民市場の定義、市民市場の目指すもの、市民市場の種類、市民市場の分類(資源、目的、参加主体)、市民市場のイメージを構築した。 ・市民市場を資源に着目して「リユース型」「産直型」「サービス型」「スペース型」に分類し、目的により「ビジネス型」「寄付型」「活動紹介型」「社会貢献型」に分類し、参加主体により「個人」「組織・団体」に分類し、これらから市民市場の全体フレームを構築した。 ・特に、参加形態が「団体・組織」に拡大したことは、社会貢献を目的とする団体・組織において市民市場の多様な活用の可能性展開に大きく寄与するものと期待できる。 ・市民市場個別モデルとして、リユース型モデルとして「個別商品モデル」「団体出店モデル」など、産直型モデルとして「びんびプロジェクトモデル」「漁船横付けモデル」など、サービス型モデルとして「旅客船活用モデル」「花火観戦クルージングモデル」など、スペース活用型として「空間貸しスペースモデル」「定期的1日フリマモデル」などの、個別モデルを立案した。 <p>(反省点・改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会実験会場となるみなとオアシス交流センターにおいて連続した期間での社会実験スペースの確保が困難であったこと、社会実験の連絡調整・募集に多くの時間を要したことにより、結果的に社会実験の実施期間が比較的短かったこと ・他地域へのみなとオアシスへのPRが現時点で十分でないこと→今後、市民市場のPRを他地域へ紹介予定 ・市民市場の基礎となるリユース型の商品流通経路が現時点で十分に把握しきれなかったこと→2月に追加アンケートを実施して今年度に対応予定 ・PR広報が十分でなかった→PR広報を十分に実施 		

	当初提案に予定していた平成22年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成22年度以降の活動の見込み
(10)平成22年度以降の活動の見込み	<p>22年度～23年度(目指す取り組みの姿) 港湾都市小松島市の真の活性化には、港を核とした活性化が不可欠である。このため小松島市での活性化拠点として、みなとオアシスにおいて市民市場参加者拡大によりマイクロビジネス型市民市場の拠点づくりを目指し、モデルによる市民ビジネス展開を本格的に実施する。そして、市民市場の小松島市中心市街地や市域への拡大、他の地方港湾等への水平展開を行う。 また、炭素収支の観点から低炭素型市民市場モデルとして再構築し、市民市場に低炭素型ビジネスモデルとしての価値を付加し、港においてグリーン・ニューディールの先駆的取り組みを行い、小松島市における地産地消地域活性化を目指す。 (取り組み) 1. 本格的展開にむけた取り組み展開 1)市民市場推進組織の設置 2)市民市場における循環型担い手育成 3)担い手育成度評価 4)市民市場の水平展開の継続 2. 新たな観点からの取り組み展開 将来の低炭素型みなとオアシスを目指して、下記の取り組みを行う。 1)炭素収支の観点からの低炭素型市民市場モデルの再構築 2)低炭素型市民市場検証実験</p>	<p>(平成22年度～23年度の取組み) 今年度、市民市場の基礎となるフレーム構築ができ、新たな展開の基礎ができた。平成22年度～23年度においては、当初とおり下記の取り組みを進める。 港湾都市小松島市の真の活性化には、港を核とした活性化が不可欠である。このため小松島市での活性化拠点として、みなとオアシスにおいて市民市場参加者拡大によりマイクロビジネス型市民市場の拠点づくりを目指し、モデルによる市民ビジネス展開を本格的に実施する。そして、市民市場の小松島市中心市街地や市域への拡大、他の地方港湾等への水平展開を行う。 また、炭素収支の観点から低炭素型市民市場モデルとして再構築し、市民市場に低炭素型ビジネスモデルとしての価値を付加し、港においてグリーン・ニューディールの先駆的取り組みを行い、小松島市における地産地消地域活性化を目指す。 1. 市民市場の本格的展開にむけた取り組み 当初計画とおり、下記の取り組みをNPO主体で進める 1)市民市場推進組織の設置 2)市民市場における循環型担い手育成 3)担い手育成度評価 4)市民市場の水平展開の継続 2. 新たな観点からの取り組み展開 予算措置が確保できた場合、当初計画とおり、下記の取組をNPOと徳島大学・阿南高専と連携のうえ進める。 1)炭素収支の観点からの低炭素型市民市場モデルの再構築 2)低炭素型市民市場検証実験</p>
	<p>23年度～32年度(目指す取り組みの姿) 平成22年度の活動を継続し、小松島での一層の市民市場参加者拡大によるマイクロビジネス型市民市場の拠点づくり、市民市場の小松島市中心市街地や他の地方港湾等への水平展開の継続、低炭素型マイクロビジネス型市民市場を実現する。これらの取り組みによりみなとオアシスで20万人の来場者数を確保し、小松島市の地域活性化を実現する。 1. 事業の本格展開の継続:平成22年度実施項目の継続 2. 低炭素型みなとオアシス拠点づくりに向けた新たな展開:みなとオアシスの活動の一部としての低炭素型「市民市場」の取り組みから、地方港湾全体を対象とする低炭素型マイクロビジネス型市民市場の拠点づくりの展開を進める。</p>	<p>(平成23年度～32年度の取組) 当初計画とおり、下記の取組を進める。 平成22年度の活動を継続し、小松島での一層の市民市場参加者拡大によるマイクロビジネス型市民市場の拠点づくり、市民市場の小松島市中心市街地や他の地方港湾等への水平展開の継続、低炭素型マイクロビジネス型市民市場を実現する。これらの取り組みによりみなとオアシスで20万人の来場者数を確保し、小松島市の地域活性化を実現する。 1. 事業の本格展開の継続:平成22年度実施項目の継続 2. 低炭素型みなとオアシス拠点づくりに向けた新たな展開:みなとオアシスの活動の一部としての低炭素型「市民市場」の取り組みから、地方港湾全体を対象とする低炭素型マイクロビジネス型市民市場の拠点づくりの展開を進める。</p>